

3 総合交通

～人と公共交通に快適なまち

<A 基本計画の目標>

総合的な交通体系の整備をめざします。

1) 自然に囲まれた歴史的遺産を後世に継承し、生活道路への通過車両の進入を抑え、安全で快適な市民生活を確保するため、市民、商業者、交通事業者と協働で交通需要管理施策を推進し、地域に根ざした交通体系をめざします。

2) 大船、深沢など拠点整備が進められている地区については、計画的な駐車場の配置等、自動車交通に対応できる施設を整備するとともに、広域幹線道路へアクセスしやすい交通体系をめざします。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	49.2 %	48.4 %	52.4 %	49.0 %	52.3 %	↗

<C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

【都市整備部】

<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>パークアンドライドの更なる利用促進に向け、利用案内看板の更新を行いました。</p> <p>今小路通り歩行者尊重道路整備計画(案)の市長提言を行いました。</p> <p>交通事業者と協調して、西鎌倉駅舎のバリアフリー化を実施しました。</p> <p>バスベイ整備(2箇所)を実施しました。</p>	◎
---	---

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【都市整備部】

<p>・パークアンドライドは、利用台数が増加しているものの、体感的には週末の渋滞が緩和しているとは感じない、期間限定で市内への車の入場規制をするとともに、市民にも公共交通機関の利用を促す社会実験を試みたい。契約駐車場をもう少し郊外の駐車場の契約を増やし、市街地への通行の軽減を図れないものか？</p>	⇒	<p>鎌倉地域地区交通計画の見直しにより、より有効な交通需要管理施策の検討を図っていきます。</p>
<p>・交通不便地域にミニバスの導入や平日の本数増加を取り入れて欲しい。高齢化から車を手放した方達の交通手段が少ない。歩いて行ける範囲に買い物する店がないのでバスが重要である。</p>		<p>オムニバスタウン計画の見直しにより、利用者の立場に立ったバスサービスの充実に努めていきます。</p>

<E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

【都市整備部】

パークアンドライドは、公共交通への転換方策の一つであり、需要は伸びていますが、パークアンドライドだけでは、交通環境の改善にはつながっていません。他の施策の実現化も進んでいません。

※未達成の理由<支障となった理由>

<F 今後の展開(取組方針)>

【都市整備部】

パークアンドライドを含めた交通需要施策の見直しを図るため鎌倉市地区交通計画の改訂を行います。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
パーク・アンド・ライド 利用台数(+)	七里ガ浜、由比ガ浜駐車場等における年間利用台数の合計	3,550 台	10,513 台	11,939 台	13,078 台	11,763 台	8,000 台	12,000 台
交通量の改善度 (-)	自動車交通によって日常生活の安全がおびやかされていると感じる市民の割合	67.8 %	70.3 %	69.3 %	66.5 %	61.5 %	58 %	48 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	29,530千円	27,548千円	25,907千円					
	(国・県)	0千円	0千円	8,333千円					
	(負担金等)	9,870千円	16,937千円	0千円					
	(一般財源)	19,660千円	10,611千円	17,574千円					
	人員配置数	6.0人	6.0人	7.2人					
	人件費 (B)	56,741千円	54,105千円	61,704千円					
	総事業費(A+B)	86,271千円	81,653千円	87,611千円					
	対前年比		94.6%	107.3%					

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・長年の懸案事項であった西鎌倉駅舎のバリアフリー化を実施したことを評価する。
- ・バスベイ整備(2箇所)を整備したことを評価する。
- ・今小路通り歩行者尊重道路整備計画(案)が市民参画のもと、約4年、30回に亘る検討会を経て完了し、市長に提言されたことを評価する。
- ・オムニバスタウン計画の見直しにより、利用者の立場に立ったバスサービスの充実に努めることに期待したい。



課題・提言

- ・超高齢社会を迎えて、住民の交通に関するニーズも大きく変わっていると思われる。鎌倉市の場合、観光等による市外からの車の流入が大きな課題となっているが、一方で、地域住民の足としての交通も重要な課題である。地区交通計画の見直しに当たっては、地域住民との対話、ニーズの把握を改めて充実させて欲しい。
- ・鎌倉市の道路はほぼ全てが生活道路。生活道路への進入を抑えるのではなく、進入を前提とした安全対策を協議していただきたい。
- ・総合交通の目標は、「人と公共交通に快適なまち」であるが、その効果測定の方法が、パークアンドライドの利用数で測定することに無理があると思う。